

No. 3

1984

12月1日発行

萩の郷

発行者
下市田区

発行責任者
林 直 輔

印刷者
飯田共同印刷㈱



△写真説明△

旧下市田学校の玄関

校舎建築伺

下伊那郡第三番学区 二付 金貳拾五錢八厘拾毛

右ハ明治十九年三月八日在

一、校舎百六拾八坪、二階
来ノ校舎焼失ニ付今般学区
内各村協議ニ於テ前書ノ通
建
リ建築ノ議決定致候間着手
仕度別紙絵図面相添ヘ此段
奉伺候也

但学令貳百八拾人、

老人ニ付六合

一、寄宿舎拾五坪、平屋建

一、敷地 六百六拾五坪、
明治二十年十月十七日

下市田村千四拾三番一號字
下伊那郡第三番学区内

石名号、下市田村共有地
下市田村總代

但学令一人ニ付貳坪三合
手塚文右エ門 印

七勺五才
中村 藤太郎 印

一、学校付属各地ヨリ距離
林 藤四郎 印

新井原ヨリ貳拾丁
北村 常太郎 印

金部ヨリ拾八丁
長野県知事 木梨精一郎殿

一、費額、金千円
甲形第八七二号

内
書面認可候事

金三百貳拾円、地価割
契 明治二十年十二月二十

但 地価 拾万五千
五日

貳百貳拾三円貳拾錢
長野県知事 木梨精一郎印

百円ニ付金三拾貳錢四厘貳

毛強
(絵図面略)

金八拾円 戸数割

但 戸数三百拾戸 壹戸
資料 酒井 伝提供

昭和59年度下市田區一般會計上期會計報告書

昭和59年9月30日

(収 入)

区 分	予算額	既収入額	残 額
1.区 費	8,500,000 ^円	4,938,200 ^円	3,561,800 ^円
2.繰 入 金	0	2,841,970	△2,841,970
3.町支出金	2,700,000	2,344,645	355,355
4.財産収入	3,600,000	1,798,750	1,801,250
5.寄 付 金	1,200,000	322,000	878,000
6.繰 越 金	1,000,000	2,155,023	△1,155,023
7.諸 収 入	800,000	950,317	△ 150,317
合 計	17,800,000	15,350,905	2,449,095

(支 出)

区 分	予算額	既支出額	残 額
1.総 務 費	6,569,000 ^円	3,992,311 ^円	2,576,689 ^円
2.厚 生 費	823,000	334,035	488,965
3.区有地費	1,030,000	868,370	161,630
4.土 木 費	4,559,000	4,401,168	157,832
5.水 利 費	1,565,000	1,234,700	330,300
6.消 防 費	474,000	587,700	△ 113,700
7.公民館費	1,780,000	650,000	1,130,000
8.予 備 費	1,000,000	0	1,000,000
合 計	17,800,000	12,068,284	5,731,716

昭和59年度下市田公民館上半期會計報告書

昭和59年9月30日

(収 入)

科 目	予算額	既収入額	備 考
1.繰 越 金	0 ^円	508 ^円	
2.繰 入 金	1,780,000	650,000	
3.雑 収 入	0	30,492	
合 計	1,780,000	681,000	

(支 出)

科 目	予算額	既収入額	備 考
1.総 務 費	750,000 ^円	76,760 ^円	
2.教養部費	400,000	62,690	
3.体育部費	445,000	251,930	
4.視聴覚部費	95,000	23,128	
5.図書部費	90,000	0	
合 計	1,780,000	414,508	

区報の発刊に当り

区長 林 直 輔

昭和五十九年も残り少なくなりましたが、区報第三号を発刊するに当り、今日迄の区の業績と動きに付いて申し述べて見ます。先頃前半期の会計監査を受け皆様にご報告致しましたが、収支共に順調に伸展、事業の方も順調に進んでおります。

特に道路改良に付いては、皆様のご理解で、用地補償費を改定した為、懸案の各

路線が大中に改良されました事は喜びに堪えません。その他出砂原の借地の開放も話が進み、議会の議決が有り次第契約を結ぶことになっており、土地の裁判も今年六回程開かれ大詰の感が致します。色々と区内皆様方のご協力に感謝申し上げます。

来年度も道路改良は最重要に進めて参る所存ですが、その他地域内の要望も出る限り町と折衝して、実現に努力して参ります。区の決議機関を代議員制にし早二カ年を過ぎようとしておりますが、出席率も非常に良く、熱心に事に当られ、区の運営も滞ることなく行われており、又諸委員会の皆さんも職務に精励され、住みよい地域造りに努力致しております。今年は委員の交替の年に当ります。二年間のご苦勞に感謝申し上げます、又今後も陰に陽に下市田区の為に協力賜わらん事をお願い致す次第であります。

昭和59年度萩山神社上期會計報告

(歳 入)

△印減

科 目	予算額	決算額	増 減
1.神饌幣帛料	3,500	3,500	0
2.財 産 収 入	6,000	7,555	1,555
3.社 入 金	1,635,000	1,167,785	△467,215
4.寄 付 金	0	0	0
5.繰 越 金	26,010	26,010	0
6.雑 収 入	0	54,279	54,279
經常部合計	1,670,510	1,259,129	411,381

(歳 出)

科 目	予算額	決算額	増 減
1.祭 典 費	212,700	96,785	△115,915
2.神符守札調製費	114,000	0	△114,000
3.給 与	242,000	141,710	△100,290
4.社 務 費	199,750	80,904	△118,846
5.管 理 費	147,590	113,320	△ 34,270
6.負担金寄付金	188,850	141,418	△ 47,432
7.積 立 金	0	0	0
8.予 備 費	115,620	27,570	△ 88,050
9.保存会育成費	450,000	450,000	0
經常部合計	1,670,510	1,051,707	△618,803

クラブ紹介 (3)

下市田

第一書道クラブ

私達クラブは昭和四十八年二月発足しました。先生は下市田三区の酒井伝先生で、他に追手町小学校に在職中の滝沢豊治先生が、毎月一回ご指導に来て下さっています。先生は県展の審委員をしておられる方です。酒井先生は町の教育長に就任されることになりましたので、後任として下市田五区の北林只人先生のご指導を願うことになって、今日に至っております。

他にも書道クラブが何組か出来たので第一書道クラブと言うことになりました。年間勉強する中で旅行もします。新年会、花見会、秋には作品を展示して下市田公民館長さん、主事さんを招待して鑑賞会を開きます。そして下市田区の展示発表会に、町の文化祭に出品します。北林先生から話がありまして、上諏訪の麦草先生に師事してご指導を受けております。先生は特に「かな文字」の大家で、広く名

声を挙げ、子弟も多く、昭和五十七年には地方の書道家としては唯一人、日本書道美術院から梅華賞という最高賞を受賞されました。私達は麦草先生から南信日日新聞を通じ、年間二、四

〇〇円の会費を納めることによって、「かな文字、条幅かな、漢字」の手本を教示していただき勉強しております。この会を南日書道協会といっていますが、この会の会員になりますと、競書といって、その月の課題を作品にして送りますと、審査によって級や段をとることもできます。麦草先生には直接公民館

二区生花グループ「あけぼの会」

私達あけぼの会では、下市田二区にお住居の土屋あや先生に教えていただいております。

月に二回で、人数は十人です。始めてから何年にも

第二回カラオケ大会

盛況に行われる

下市田公民館主催、第二回カラオケ大会が、九月二十八日(金)午後七時から、下市田公民館で盛大に開催されました。当日は萩山神社の秋の夕祭にあたり、公民館講堂が久方振りに人があふれる程の超満員(約三百人余)の盛況でした。出場者は前によって、各部落長

さんを通じ、二区、五区は

へ来て頂いて、手をとって三回程ご指導を受けております。私達は昨年は、「千曲川旅情のうた」本年は、「信濃の国」どちらも全文を大判に書いたので、これを機に毎年一幅ずつ記念として家に残しておきたいと話しています。

(伊奈川喜代治)

楽しいひとときを過ごす事もあります。

今こうして好きな事が出来ます事を、本当にありがたいことと思っております。

(大沢百合子)

催者小島公民館長のあいさつの後、前回(第一回大会)入賞者よりトロフィの返還があり、審査委員の紹介があつて、大会司会者橋都視聴覚部長により、午後七時二十五分大会に入りました。一番の「中の島ブルース」三区杉田洋一さんに始まり段々と歌が進むにつれ、聴衆、応援者も熱が入り、会

場全体が一段と盛り上がる中で、応援団の飛び入りもあり、最後に「長良川艶歌」六区北林洋子さんの歌で大会は終了しました。



熱唱

審査会の間には、一般聴衆、応援者からが期待されます。下市田公民館のカラオケ大会は、昭和五十八年度にスタートしました。第一回は午後九時過ぎでした。大会の入賞者は「カラオケ大賞」野牧克己(二区)、「歌唱賞」佐藤忠(六区)、「熱演賞」林兵一(五区)、「努力賞」西村東一郎(二区)の皆さんでした。

第二回大会結果は、「カラオケ大賞」西川順二(五区)、「歌唱賞」甕美奈人(二区)、「熱演賞」中谷まち子(一区)、「努力賞」北原松江(六区)の皆さんでした。この第二回出場者は次のプログラムの皆さんでした。

四名、「応援賞」三区受賞 (教養部長 福島正夫)

- | | | | |
|----|----|-----|------------|
| 1 | 杉田 | 洋一 | 中の島ブルース |
| 2 | 小川 | 隆司 | 時間よ止まれ |
| 3 | 服部 | 満子 | 夫婦舟 |
| 4 | 甕 | 美奈人 | 水色のワルツ |
| 5 | 宮沢 | 一 | 娘よ |
| 6 | 木村 | 勉 | 北国の春 |
| 7 | 山崎 | 己達 | 兄弟船 |
| 8 | 大島 | 広司 | 私の名前が変わります |
| 9 | 寺沢 | 志津子 | 夫婦橋 |
| 10 | 清水 | 英昭 | 旅の終りに |
| 11 | 森下 | 久子 | 鳳仙花 |
| 12 | 神保 | 芳子 | 人妻 |
| 13 | 中谷 | まち子 | わかれ酒 |
| 14 | 北原 | 松江 | さざんかの宿 |
| 15 | 片桐 | 竹雄 | そんな女のひとりごと |
| 16 | 西川 | 順二 | サチコ |
| 17 | 北村 | 征夫 | 湖愁 |
| 18 | 北林 | 洋子 | 長良川艶歌 |

史跡めぐりシリーズ(3)

松岡城址について 矢亀 勝俊

松岡本城は今から凡六五〇年前の南北朝時代(中世)に松岡氏によって築城され

あるので、城の立地上の見地から次に略記する。

下伊那は天竜川を中心にして大規模な段丘地形がある。その成因など本稿と関係がないので述べないが立派なものである。「下伊那城址一覽」(宮下操、伊那一九六五)によると孤峯らしい山の峯や段丘のはじは必ずという位、城があったとかき九二ヶ所あげている。高森町でも天竜川から2 Kmか

3 Kmはなれ標高が五〇〇m位の所で比高が五〇mから八〇mの急傾面で多くは樹木に覆れた一連の大規模な段丘(萩山神社のある)がある。この段丘からは東に伊那、赤石の雄大な山脈を望み、眼下には豊饒な沖積

低地に対し段丘上はゆるやかな斜面で山麓の扇状地に続いており富有な経済力の基盤となる原野が広がっている。

この段丘を切る川には座光寺、上郷境の土曾川、南大島川、境沢などは大河の方で小河や何々沢が多い。これらの河川は段丘を浸蝕しており、細かく彫刻して

る。松岡本城は間ヶ沢と銚子洞の沢で段丘が浸蝕された舌状の台地上にある。このような所は城を作るに都合がよい。築城は防禦設備であるから、松岡本城の図に示したように多いのは五つから六つの堀を作り、防禦の必要から城の根元に当る所に堀切、帯郭をもうけるなど万々に備えている。

これも本城だけでなく、支城、境界防禦の城、連絡本城など防備用で、別府、黒田など南方に備えた。南大島川の段丘上に城という地名の山もある。南城、本

用の城、退守城、攻撃用の城その他、狼煙台等々にもあったという。松岡城関係にはどれだけ意図的に設けられていたか記録がないのでわからない。松岡城の本城というのに対して支城、或は属城といわれる城や、皆は各々松岡郷を守る機能をも

って各々防備していたと思う。

南は座光寺上野本城、南大島川など防備用で、別府、黒田など南方に備えた。南大島川の段丘上に城という地名の山もある。南城、本

城、大丸山、古御家、吉田城山、吉田古城本城、南城、天伯などあり、原城は北の守りであった。これらはみな舌状の段丘上に作られた。天正十六年に松岡貞利は徳川方により改易せられ所

領は没収された。松岡の支城、属城も大した記録を止めず名残に城址が残っている。この様に一連の城址は貴重な文化財であるから残したいものである。

領は没収された。松岡の支城、属城も大した記録を止めず名残に城址が残っている。この様に一連の城址は貴重な文化財であるから残したいものである。

領は没収された。松岡の支城、属城も大した記録を止めず名残に城址が残っている。この様に一連の城址は貴重な文化財であるから残したいものである。

領は没収された。松岡の支城、属城も大した記録を止めず名残に城址が残っている。この様に一連の城址は貴重な文化財であるから残したいものである。

領は没収された。松岡の支城、属城も大した記録を止めず名残に城址が残っている。この様に一連の城址は貴重な文化財であるから残したいものである。

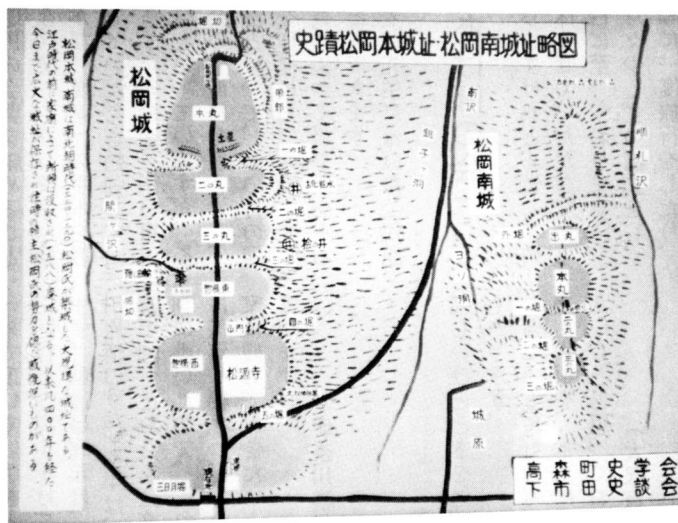
領は没収された。松岡の支城、属城も大した記録を止めず名残に城址が残っている。この様に一連の城址は貴重な文化財であるから残したいものである。

領は没収された。松岡の支城、属城も大した記録を止めず名残に城址が残っている。この様に一連の城址は貴重な文化財であるから残したいものである。

領は没収された。松岡の支城、属城も大した記録を止めず名残に城址が残っている。この様に一連の城址は貴重な文化財であるから残したいものである。

年度別	該当の方	喜寿の方	米寿の方	長寿の方
昭和五十八年	三三五人	二〇人	四人	六人
昭和五十九年	三五七人	一七人	一人	一〇人

松岡城案内板



敬老会に寄せて

小島 正美

菊花薫る秋たけなわの十月四日、下市田区、公民館主催による敬老会は、天候にも恵まれ、多勢の出席をいただき、盛大な展示、発表会ができました。

一昨年までは、敬老会と展示、発表会は別々に開催して来たのでありましたが、昨年からは、区、公民館、婦人会合同の敬老会を開催することになり実施しましたところ、大変な盛況で好評でありましたので、本年も同様の計画をたてたところ、婦人会は会員の減少により共催することが出来ないといいことで、本年は区と公民館が行なうことになりました。

婦人会は協力の立場で参加いただきました。今まで何年か十月下旬に、公民館はグループによる展示、発表会を開催し、続いて十一月に区と公民館合同で敬老会を開催して参りましたが、秋の取入れ等もあって、参加される方々が少なかったこともあって、昨年から展示、発表会と敬老会を併せて開催することによって、盛大に出来るようになりました。本当に良かったと思っています。敬老会に招待いたしました方々を昨年と今年を比較してみますと、次のようです。

下市田河原工業団地

地権者組合

林 安 男

下市田河原工業団地計画については、町報たかもりその他の機関等に於いて、計画目的等はすでにご承知の通りであると思われますが、私達直接団地予定地に耕地が入る者にとっては、重大な関心事であり、今後の宮農計画の変更をせまられる人もあるほどです。

町の計画がおいおい進む中で、将来共によい結果が出るようにと、下市田出身の農業委員の方々のおねおりにより、地権者組合が結成されました。不祥私組合長ということになりました。町の将来展望による工業団地計画と、直接影響を受ける地権者との諸問題の話し合いは非常に大変で、難問が山積されており、微力な私にとっては荷の重すぎる役目ではあります。地権者の皆様をはじめ関係各位のご協力を得て、役目が全うできますよう格段のご協力ご指導のほど御願ひ申し上げます。幸い立派な十三名の委員の皆様がおりますので、良く相談して、

将来に悔の残らない方向を見たいと思います。

地権者組合の現状は、九月一日に地権者数七十名、耕作面積約十六haの設立総会を開き、組合の名称、経費の負担、委員の選任、今後の取組み等決めて、第二工業団地予定地地権者組合が誕生しました。

九月十七日、地権者総会を開き、町長さんをはじめ工業団地推進役員をお願いし、町の考え方や現状の説明を受けました。その主な内容は、(一)町として工業団地計画は最重要事項として取組んでいくこと。(二)買取単価二八、〇〇〇円/坪(三)免税額二、〇〇〇万円が共に示され、四人でも地権者の反対があれば工業団地はできないこと。(四)今後の方針として地権者の同意が得られれば六十年六月、七月に着工したいこと。(五)全面一度に着工するのではなく何期かに分けて工事をいうこと等でありました。

地権者組合ではこの説明会をもとに、部落毎協議の

場をもち、地権者各人の意見を聞くという事で意向調査を行ないました。

今後町との話し合いの場がもたれると思います。が、(大事な要件、又事を決する時には地権者総会に計るのは当然であります)だ

いたいの地権者各人の意向が確認できたので、町との話し合いの基としてまいりたいと思います。

①一等農地の下市田河原十六haを工業団地に転用して、町の農業振興又農業の位置付をどう説明するか。

②周辺農地に対して悪影響

地権者組合の経過

- 9月1日 第2回地権者組合総会
- 9月17日 第3回地権者組合総会
(町からの説明会)
- 9月21日 組合役員会
- 9月22日～9月25日 部落別地権者協議
- 9月26日～9月30日 地権者意向調査
- 10月3日 組合役員会(意向調査集計)
- 10月16日 組合役員会と町の開発小委員会との協議

地権者組合役員

組合長	林 安男	上沼 由治
副組合長	井駒 二人	原 昭夫
副役員	唐沢 哲男	佐々木 陽一
	富田 隆仁	林 邁人
	坂牧 康弘	上沼 義人
	仲平 靖	
	柵田 頼人	
	井崎 琴人	
	林 隆夫	



はないか。

③工場団地反対の地権者との納得できる話し合いはできるか。

④希望価格で買収してもらえるか。

⑤希望する所へ代替地が求められるか。

昔は人生五十年といわれたものでしたが、昨今は急速に進む高齢化社会になりつつあり、人生八十年時代が到来するのではと思うわけで、誠に目出度いことではあります。反して病

因も昔より新しい不治病も増えて来ている。今日此の頃でもあります。先日(十一月二日)町民体育館に開催された大講演会に出席いたしました。

講師は厚生連佐久病院々長若月先生であり、演題は「農村生活と健康」という話を聴きました。特に次のようなガン、中風予防対策について注意するように話されました。

ガンの予防対策12カ条のとれた栄養をとる。

1 偏食をせず、バランスのとれた栄養をとる。

2 同一食品をくり返してはとらない。

3 食べ過ぎない。

4 深酒をしない。

5 喫煙を少なくする。

6 適量のビタミンA、C、Eをとる。食物繊維をとる。

7 塩辛いものを多量に食べない。あまり熱いものは食べない。

8 ひどく焦げたものは食べない。



敬老会より



萩山神社ものがたり(3)

—「一間社流れ造」とは—

伊谷唯介



中央 本殿、右 八幡社、左 荒神社

参道を登って鉄の鳥居をくぐると、正面の一段高いところに拝殿とその後ろに八幡社の屋根、あるいは社務所や廁の一部分、また左手にお舞屋、右手に宝蔵庫、囃子屋台収納庫などを散見することができ、更に石段を登って拝殿の前に立つと、拝殿の柱間を通してまた一段高いところに本殿や荒神社を拝むことが出来、左手に末社、伊勢宮と続いているのが見える。

以上が萩山神社の建物の全部である。もちろん、大庭の森の中にあるいわゆる荒神さま(下社)も大事な建物であるが今回は省いておく。

このような建物が広大な境内にそれぞれその処を得

て配置されていて周囲の森の草木とよく調和して、いかにも神域らしい景観を呈していることは改めて書くまでもない。

このような建物がいつ誰れの手によって建造されたかは神社の由緒録に譲るとして、今回はお宮で一番大切な本殿、八幡社、荒神社の建築物について調べてみる。

これらの祠にどんな神様をお祀りしてあるかは前回に書いたので省く。

このような社の建築物はその神社の独特のものか、或は何れかの社の流れを汲んでいるものか。

われわれは各地の神社に参拝して、多くの由緒あるお宮は草木の茂った森に囲

まれて如何にも神の鎮座まします処といった環境の中にあり自ら襟を正させるのであるが、このような神社の本殿その他の建築様式が当社を含めて一様でなくいろいろな様式のお祠であることに気付く。

大昔は神様を住居の片隅にお祀りしていたとか、黒木で掘立式の小社で四方に垣を巡らして神様を祀るところとしていたとか推定しているようだが、このような大古のことは暫く措くとして、神社建築様式の最も古いものは、

平安初期には次の四形式が完成したと延喜式にあり、この頃には全国の神社数千余座と夥しい数になっていたようである。

さて、この四形式とは、
春日造(春日大社)
流れ造(加茂神社)
八幡造(石清水八幡宮)
日吉造(日吉神社)
である。

前記のような各地にある神社もそれぞれこれらの形式の流れを汲んで建築されたものであると思われる。

交通安全区民集会について

安協 小 池 義 人

下市田区では交通事故、違反の0をめざして八月二十六日に下市田公民館で交通安全区民集会を開きました。今回は二部制にして、午前中は老人と小中学生に出席してもらい、山吹駐在所の駐在さんから交通弱者むけの法規の講演をおねがいし、そのあとで公民館の駐車場で、自動車と人形を使ってダミー実験をして、事故の恐ろしさを実際にみてもらいました。午後は六時半から開かれ、区長、町

わが萩山神社の本殿、八幡社、荒神社は右記の二番目の「流れ造」——京都の加茂神社——の形式を踏襲しているのである。因に全国の神社の八割はこの形式であるといわれている。

なお、日本建築で屋根の構造を切妻・寄棟・入母屋と三種に分けるが、「流れ造」は切妻の種類で、普通の切妻形式の屋根なら棟から両方へ同じ長さになっていくのに「流れ造」では片方の軒——前面になる側——の軒を長く延して、階段が雨などで濡れないようにしてある屋根であり、従って屋根の前側と後側とは長さが違う。当社の本殿その他を横から見るとこの事がよくわかる。

また、当社の本殿その他の正面には柱が一本もなく一間(ひとま)にまっている、このような造りを「一間社」と言う。従って、萩山神社の本殿、八幡社、荒神社の造りを正しくは「一間社流れ造」と言う。

小学生の原京子さんが交通安全区民総ぐるみによる交通安全運動を力強く推進し交通安全事故のない明るい、住みよい下市田区としたいと、交通安全の誓が採択され、盛大に区民集会が行なわれました。



上洞常会の慰安旅行

四区 林 稔



九月十六日は、四区上洞常会の秋の慰安旅行であった。目的地は信州の鎌倉、別所温泉。秋のみのりも、一〇〇年来の夏の暑さと、好天に恵まれ、豊年万作。黄金の波がうち続いていたが、二日前に起きた、木曽大滝村の大地震は、被害の状況がわかるにつれて、あらためて地震のおそろしさを認識させていた。

当朝は、苦干の湿り空ではあったが、林自動車のマイクロボスは快調で、それ以上に快調なのが、きゅうぎゅうに詰まされた、お客

様達。まず割り当てられたワンカップから始まるが、

酒に焼酎、ウイスキーと、次々回ってくるから、ややつこしくなる。下市田の中でも品方正な常会であるから、上品な唄が始まったら、止まらない、やめられない。飲んでりゃ下へも

出たくなる。生理にまかせりゃ、街の真中こわくない。どうにかこうにか、宿屋へ着けば、カラオケ付きの豪華なお膳。風呂から上って、さあこれからが本番と、女中さんにもかまわず、持参のマホビンが、お出ましとなる。そんなもんじゃ

どっちみち足りなくて、早く早くと当番は、帳場へ催促するに忙しい。函館山から薩摩の女まで、さすがに唄いつかれて、「よかった」

と、立ち上って見たものの、「お土産くれえは、買ってかにか」と女衆も忙しい。北向観音と、何とか寺は、ちゃんとして見て、帰りは援られりや

ねむくなる。

雑感

一区 北沢 富夫

昔から、酒を飲む事だけは自慢の常会で、十軒で、十升は下らなかつたが先輩の口ぐせで、お陰様で、本日も無事、伝統が果せた模様である。下市田の南はず

は自慢の常会で、十軒で、十升は下らなかつたが先輩の口ぐせで、お陰様で、本日も無事、伝統が果せた模様である。下市田の南はず

は自慢の常会で、十軒で、十升は下らなかつたが先輩の口ぐせで、お陰様で、本日も無事、伝統が果せた模様である。下市田の南はず

は自慢の常会で、十軒で、十升は下らなかつたが先輩の口ぐせで、お陰様で、本日も無事、伝統が果せた模様である。下市田の南はず

様である。下市田の南はずれに灯が見えて、明日も天気が良さそうだ。御苦労様でした。

.....
パッと幕が落ち、ハッと驚いた。高い空間に、見事に描き出された篆書の「復興記念」という造形文字が、輝くように目に入ったからである。

私は残念ながら字を習う機会がなくて、そのよしあしは何をもって計るべきかよくわからない。然し、字がこんなに巧みに美しく書き表わされて、人の心を捕えるものとはつい知らなかった。

以来、落款のないあの題字は誰れが書いたものか知りたくて、何人もの人に機会あるごとに聞いたが、つい教えてくれる人はなかった。そして十六、七年が過ぎた。

ある日、「隣の古老」と雑談していて、字の話から復興碑の話になったとき、実は、その書の経過を知っているのは、「町長さん」と、私以外にないのだ」と次のように話してくれた。当時町長さんが、古老宅を訪問し、「記念碑建立に

つき、貴方に題字を書いてほしい」と紙を持参で依頼された。然し古老は、「私ごときが」と、堅く断り、その道の書家である、松本在住の、「秋山錦城」という人に足を運び出来上ったものを町にとげたという。なお錦城とは、明治年代に信州の代表的な書家であった「秋山白巖」の嫡子であり、又その白巖こそ、隣り

教えてください、教えます

友人から聞いた
健康法

松川町に住む六十才代はじめの友人は「私は疲れを知らない」といいます。その秘訣を聞いたところ、次のことを教えてくれましたのでご紹介します。

さるのこしかけ
そばん草
げんのしょうこ
どくだみ

私は、にんにくを酔じょう油に漬けておき、それを常時食事の時に食べて、私の健康法の一つにしています。ご参考までになさってください。

(五区 伊藤晴子)

はとむぎ
美容に

以上のもを適当に入れ、行平鍋で煎じ、三分の二位まで煎じたら、土瓶に移し毎朝か空腹の時に飲む。牛乳を一台の中に蜂蜜茶さじ一杯入れて毎朝飲む。これらのものを飲むよう



中学校生活を振り返って

早いもので、もう3年たってしまった。短かったような気もするが、思い出はいくらでもある。とにかく楽しい3年間だった。

その内でも、何が一番楽しかったか、というと、やはり友達と過ごしてきたことだろう。クラスの友達から、部活、委員会などまで沢山の友達を持った。そして、そのいろんな友達と、雑談して笑ったり、一緒に

小学校に入学と同時に、飯田市スポーツ少年団の剣道部に入りました。練習は思ったより厳しくて、いやになる事がたびたびありました。最初の二年間は、面打ち、小手面など基本練習が中心でした。三年生になると、技を習ったり先生にかかって行きました。先生にかかって行って、抜けるのがおそいと、おし倒される事も数えきれないほどありました。苦しい事やいやな事があると、次の練習日は行くのがいやになってしまい、休んだ事も何回かありました。でも練習のたびに、忍耐

遊んだり、勉強したり、一生懸命仕事をしたりしてきた。嫌だったこと、悲しかったことなども当然数多くあったが、今思うとそれはそれなりに自分にプラスになっているような気がする。

それから、友達のこととも関連するが、委員会、クラブ等々のことも、なかなか楽しかった。もちろん苦しかったこともあったけれど、委員会など、満足感のよう

作文

残心、気剣体、気、機先、真、間などと言う言葉とその意味を、教えてくれました。どれも剣道に関係のある言葉ですが、そんな中でよくが好きで大切にしている言葉は「忍耐」と言う言

ぼくの宝

葉です。辞書には「がまんする事、しんぼう」と書いてあります。今までのぼくには、この事が一番出来なかった事です。先生にこの言葉を、教えてもらってからは、真冬の寒い夜などの練習は、手足の感覚を失っ

なものがあった。まだまだいろんな思い出があり、挙げていけばきりがありません。それで、この辺りで終わりにしたい。全体には、初めにも書いたように楽しい3年間だった。

これから先も、中学の3年間の様に楽しくやっていきたい。

(四区 木村 博昭)

てしまう事もありましたが「忍耐」と言う言葉を思い出し、歯をくいしばりがんばって、続けて来ました。県内や県外の大会に何回か選手として出場しました。

今の世の中は、お金さえ出せばいくらでも好きな物を、買う事が出来ます。けれども、お金では買う事の出来ない「忍耐」と言う事を、剣道から学びました。これからも、この言葉を大切に、苦しい時こそ思い出し、いつまでもぼくの宝物として、大切にして行きたいと思います。

(三区 福島 徹)



新学期にむけて

南小へ入学してから、もう三年間が終わろうとしている。今までに楽しかった事がたくさんあった。遠足運動会、音楽会、夏祭りなど…… 悲しかった事もあった。それは水泳、水泳大会の時、ちょっとしかできず、みんなはスイスイ進んで行くのに、僕はたったの三、四mだけ。できるみんながうらやましかった。

四月からは四年生ヘスタート。今度は組がえがあるのだ、友達の事、先生の事など、心配です。なんで組がえをするのかなあって、ぼくはふしぎです。

新しい友達とも仲良くしたい。忘れ物をしない。あいさつができるように。小さい人に親せつにしたいです。

(五区 小林 功)

私が中学生になってからもう一年になる。入学した時は、小学校の校舎が新しかったせいか、なかなか慣れず落着きませんでした。それに言葉使いもしつかりしていて難しく、びっくりしました。勉強も行事も小学校の時とは違い、急に違う世界へ来たようでした。

拍手で、体育館へ迎えられた時は、もう一年前なので。そうして、もう、卒業式。今の三年生には、中学に来て一年間しか出会えなかったけれど、色々な事に先に立って活躍し、私達に、色々教えてくれました。

中学では、先生より、三年生が先に立ってやってくれます。勉強もし、スポーツもし、生徒会の先にも立って、三年生を見てきて、中学生時代は、たいへんだと思った。よく大人の人でも、中学生時代が一番楽しかったという。一番みんながみんな、とけ合っている時だからだと思う。三年生には、大きな拍手と感謝の気持ちで送りたい。

(一区 壺 恵美)

× × × × ×

編集後記

区報も好評の内に、第三号を発行することになりました。原稿を依頼しました方々には厚くお礼を申し上げます。

本年は正月以降稀にみる寒さと大雪にあつて、これは悪い年になりそうな予感がありました。その後また夏の暑さが近年にない高温続きで、これも心配の種でした。但し秋山神社のご加護により、総ての農作物が豊かであり、良い年であったことを感謝するわけで、農業が良ければ商業、工業も発展することであり、どうかこの豊作が貧乏でないように祈るとともに、明るく健康で良い年取りが出来また輝やかしい正月を迎えることができますように。

